

会 議 録

会議名 (審議会等名)		シビックプライド向上計画策定委員会 (第2回)		
事務局 (担当課)		観光・シティプロモーション課 電話 042-707-7045 (直通)		
開催日時		令和4年8月16日(火) 18時30分～20時30分		
開催場所		相模原市役所 本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	5人 (SDGs・シビックプライド推進担当部長、観光・シティプロモーション課長、他3人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 諮問 3 (仮称) さがみはらみんなのシビックプライド向上計画について 4 その他 5 閉会		

審 議 経 過

第2回会議について、主な内容は次のとおり。

1 開 会

2 諮 問

「(仮称) さがみはらみんなのシビックプライド向上計画の策定について」榎本市長公室長より、牧瀬委員長に対し、諮問書を手交した。

3 (仮称) さがみはらみんなのシビックプライド向上計画について

事務局より、(仮称) さがみはらみんなのシビックプライド向上計画について、計画策定の根拠、目的、今後のスケジュールについて説明を行った後、検討を行った。

主な意見は次のとおり。

(牧瀬委員長) 根拠や目的はこれでよいと思うので、構成についてご意見をいただきたい。確認だが、行政計画の第一の読者は誰か。一般的には市役所職員だと思うがどうか。

(事務局) 行政計画として、この計画に基づいて進めるという意味では職員である。

(牧瀬委員長) 計画の読者は第一が市の職員で、その他市民など関係する関係者等々ということ念頭にご意見いただきたい。もちろん行政だけではできないので、過程においては市民に関わってもらうが、まずは市職員が読むものであることは意識していただきたい。

(全委員) 基本的にはこの構成でよいと思う。

(牧瀬委員長) 構成自体はこの流れとし、今後の委員会の中でまた出てきたら、適宜追加するというように進めていきたい。

事務局より、計画の第1章から第3章までの案について説明を行った後、検討を行った。

主な意見は次のとおり。

(牧瀬委員長) 提案だが、「第1章 計画策定の背景」があって、「1 「さがみはらみんなのシビックプライド向上計画策定」の背景」とある中に、リズムをつけるため、各章に2～3行程度のリード文があるとよい。

また、例えば第2章の3ページ、3分の1が下の部分あいているが、各委員がコラムを書くことを提案したい。シビックプライドの計画であるので、市民が主

体のものになると思うので、ぜひやっていきたい。名簿順でいいと思う。

(廣田副委員長) 第2章5ページ、全国から見た相模原というところに表がでていると思うが、この何位、何位というのは、何位中の何位というのが分かたら。

(事務局) 全国1, 047の自治体のうちの順位となっている。

(羽生委員) 資料3の2ページにある目標は、まずは相模原に住み続けてもらうというのが一番上にあって、さらに、その市外の方には相模原をもっと知ってもらって住んでもらうという順番ではないか。

また、資料2の10ページの表の中で、何も知らない人の割合、イメージを持っていない人の割合は下がる方が良いという指標となっているが、※印のところはプラス3%で設定しているということは表現が一致しないので、何かしら知っている人の割合とするのか、何かしらイメージを持っている人の割合でプラス設定にした方が、表の取り扱いとしてよろしいのではないか。

(事務局) 順番については、第2次シティプロモーション戦略を引き継いだ案になっており、今頂いた意見を踏まえて検討し、整理した考え方をお示ししたい。

(牧瀬委員長) 目標が3つあるが、それぞれ今住んでいる市民として市内市民とこれから住む市民として市外市民と分けて考えられると思う。その点は書く必要はないが整理しておくとういと思う。

(水本委員) 目標の3つの順番については、誰にもっと知ってもらうのかというのは確認したかった。シビックプライド向上であれば、対象は住んでいる方になり、もっと知ってもらうことの対象が市外の人たちとなるとシティプロモーションになる。知ってもらうのが市外の人となるのを前提とするのであれば、順番が違うのではという話だが、市内の方にも知ってもらうという話であれば、順番はおかしくないと思うので、誰にというのを明確にさせていただくとよいと思う。

(倉澤委員) 賛成である。誰にという部分は明確に分けないといけない。

(黒田委員) 提案だが、こういう資料に記載するかは別として、他の都市との比較ができるイメージが伝わりやすいと思う。

また、取組の対象エリアであるが、この市を盛り上げていくということであれば、関東圏ぐらいであってもいいと思う。

高くても魅力があるところにも勝っていけるような、何か存在感みたいなものを見出していけないといけないと思う。

そして、調査という点では、中央区、南区、緑区のお住まいの方々だけでも違いがあり、取組を考える際にニュアンスが変わってくる可能性があるため、留意したほうが良いと思う。

(事務局) 他の都市については、事例という意味で紹介できるものがあれば、検討したい。エリアの話は、第1次シティプロモーション戦略では、東京、神奈川、埼玉、千葉の一部までを対象エリアとしていたが、第2次戦略を作るにあたって、

これが適切だったのかという検証をした。その結果、千葉、埼玉はシティプロモーションの実践的なエリアとしては、範囲が広すぎたという検証結果となり、第2次戦略では、実際にもっと情報がしっかり届く東京、神奈川までをエリアとした経過がある。ただ新型コロナウイルス感染症により人の流れが変わってきているので、もう一度検証する必要があるかと考える。

(山崎委員) このまちに関わってきたか、より良くしたいというような方々の調査はしているのか。愛着、親しみ等はあるが、関わりたいと思っている方がどれぐらいいるのか。

(事務局) 市民協働基本計画の中で調査結果があり、最新の情報では、35%と出ている。背景のところにもあるが、協働によるまちづくりを進めるにあたって基本となる重要な要素ということで、第1章の2ページにあり、シビックプライドを高めることにより携わっていかうとする気持ちが高まると、こういった地域活動をする人が増えていくのではないかと考えている。

(山崎委員) この愛着、親しみを持っている方の半分ぐらいが地域参加しているという状況にあると思うが、指標にこの点もいれられればと思う。

(中村委員) どの点に意見が欲しいなどの部分はあるか。

(事務局) 全般にいただきたいところもあるが、とりわけ基本方針、こういった方向でいくべき、アピールポイントはこうしたほうが良いなどのご意見をいただけるとありがたいと考えている。全体のイメージとしては、相模原の魅力がある程度絞ってイメージをしていただくことが非常に重要であると考えており、アピールポイント案としているのは、これがまだまだ市内にも浸透していないと感じており、次回以降市内のワーキンググループの検討も踏まえて、もう少しここを具体的にこんな考え方でアピールしていきたいというところを次回お示ししたい。

また、次回以降、具体的な取り組みの中で、こうした魅力をどのような手法で発信をしていくのかについても、次回以降具体的な取り組みの中でお示しをさせていただきます、ご意見をいただきたいと考えている。

(牧瀬委員長) 次回以降は論点について、こんなことを聞きたいなことを明確にしてもよいと思う。

シティプロモーションの観点で資料の12ページを見ていただくと、15歳から64歳でさいたま市が8,000人入ってきていて、子どもの数が1,600人。相模原市は3,100人入ってきていて、子供の数は90人と、単純に割り返すとさいたま市の場合は、この数字だけ見ると、5人に1人が子供連れとなっている。

一方で相模原市は、30人に1人という状況。仮説としては、相模原市はおそらく50歳代、60歳代が多いのではないかと考えていたが、違うページを見たら、実は39歳まで多い。次の3ページを見ると、相模原市は労働力人口でも4

0歳代半ばから60歳代が多いのかと思ったら、20歳代から30歳代が結構多いと。そのあと考えられるのは、相模原市に入ってくるのはほとんどが独身なのか、子育て世代じゃないのか、独身で入って結婚して子供を産んでいるのか、など中身が分かれば教えてもらいたい。

また、この15歳から64歳の数字について、これは実数だが、おそらく人口比にすると、相模原市は政令指定都市では上位になるかもしれない。人口比で上位だとするとシティプロモーションになる。

水本委員から資料を提出いただいたので、これについて説明いただき、意見交換を行いたい。

水本委員より「シビックプライドを向上させる取り組みについて」説明

- ・ シビックプライドは市民のまちに対する愛着や誇りのことであって、よく言われるような郷土愛ではない。
- ・ 積極的にまちに関わっていこうという意識が高まると、まちの文化的な価値、社会的な価値などが上がり、結果として定住人口、交流人口、関係人口などが増え、持続性が高まる。
- ・ シビックプライドは人の気持ちなので、デザインはできない。コミュニケーションのデザインが大事である。
- ・ 取り組みでは、まず対話、会話が大事であり、それが生まれる場所が必要ではないかと思う。
- ・ シビックプライドは開かれている必要がある。
- ・ 市民同士がつながるためには、まちを財産として、市民同士がつながる楽しいコンテンツをある程度市民に委ねて行うのが大事。

(中村委員) 相模原市として、一生を通じてのライフタイムバリューとしてはどういう考えがあるか。一つのまちの中で全部完結して幸せに完結できるような展望はあるのか。

(事務局) 市に愛着を持つ、誇りを持つという中では、やはり先ほど水本委員からお話があったシビックプライドセンターのようなランドマークみたいなものがあったり、雰囲気として確固たる、他の人に誇れるような雰囲気があったり、市内において何不自由なく市内でこなせるものがあつたほうがいいなど、様々な意見があると思うが、本市としては、様々な形の中でどういうまちにすれば誇れるかというのは、この計画の中でも示せればと思っており、答えはさまざまあると思うが、我々にできること、我々の範囲でこの条件の中でどういったことができるかというのを、皆さんと一緒に意見しながら計画として作っていくものと考えている。

(中村委員) 横浜市や、藤沢市などは特にイメージがよいが、これに関してはどう思っているか。

(事務局) 横浜市、藤沢市はイメージがよく知名度が高い。所与の条件、例えば歴史、神社仏閣、海といったものが影響していると考えられるが、相模原市にそれはない。その点だけでは比べようがないというのは仕方ないが、そうではなくて、相模原らしさとは何か、実は知られていないが、ここは魅力であるというところが、伸ばしていくべきキーポイントなのではないかという話をしている。

そういう意味でアピールポイントとして挙げている「子育てするなら」というようなことは、多くの自治体が言いたくなくなってしまうところだが、子育て支援サービスなどで実態が伴っていないと看板倒れになってしまう。ただ、分析から実態は県内、政令指定都市、子育てしやすいまちと比較すると相模原市は劣っていないということが分かった。このため、まだ知られてない魅力で、アピールしがいがある。それが、ひいて言えば新しい住民の方、次の世代を担う方を新しい市民として迎えて、まちの発展につながる。これが相模原の魅力にどのように繋がっていくのか、また、近づいていくのかというのを議論していきたいと思っている。

(中村委員) どこから来たと聞かれた時「神奈川県」と答えるのではなく、市民一人一人が「相模原市」と普通に言えるぐらいになったらと思っている。

(牧瀬委員長) 倉澤委員から資料を提出いただいたので、これについて説明をいただきたい。

倉澤委員より「さくらとくらす中央区らいふ～相模原市中央区ガイドブック～」

「町田・相模原わがまちタウンマップ」

「相模原市のオンライン旅行発表！及び地域の方とのパネルディスカッションの開催」説明

- ・ 中央区で転入者に配布しているガイドブックだが、わかりやすく中央区の特徴が入っている。知ることが大事であって、各区の間でも、お互いを知る取組などできればと思っている。
- ・ わがまちタウンマップは、桜美林の中学生がまちを調べ、作ったもの。
- ・ 相模原市のオンライン旅行発表については、富士見小学校の取組で、コロナで旅行に行けないことをきっかけに、児童が調べて、世界、日本、相模原市の旅行を計画して発表しようというものであったが、子どもたちが自分たちで行ってそれを紹介している。地域のことを知って、地域の方と一緒に活動している。地域参加への意識も育っており、こうした取り組みから、小中学生にいろんな形で地域と一緒に動いてもらうことは非常に効果的ではないかと思っている。

4 その他

事務局より、今後の本委員会の開催時期について説明を行った。

5 閉 会

以 上

シビックプライド向上計画策定委員会（第2回）委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	あさかわ 浅川 あゆ	学生		欠席
2	くらさわ よしあき 倉澤 良明	公募委員		出席
3	くろだ ともなり 黒田 知誠	株式会社スポーツクラブ相模原 広報部 部長		出席
4	なかむら かずき 中村 和希	公募委員		出席
5	はぶ ひろと 羽生 宏人	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授		出席
6	ひろた しずか 廣田 静香	公益社団法人 相模原青年会議所	副委員長	出席
7	まきせ みのる 牧瀬 稔	関東学院大学 准教授	委員長	出席
8	みずもと ひろとし 水本 宏毅	株式会社読売広告社 都市生活研究所 エグゼクティブリサーチディレクター		出席
9	やまざき ゆうき 山崎 勇貴	公益社団法人 津久井青年会議所 理事長		出席